

「富士宮市の自然」正誤表

ページ	行	誤	正
発刊のことば	16	調査研究各位	調査研究員各位
4	凡例 I D	羽魚付丘陵	羽鮒丘陵
6	左 20	岩板角礫岩	岩板溶岩
10	右 4	未了	未了
16	左 4	基性火山	塩基性火山
19	調査者欄	干地・紺田 (1978) *1	干地・紺田 (1978) *1
28	試料採集地欄 下から 6	富士宮市太沢扇状地扇頂部	富士宮市太沢扇状地扇頂部
29	試料採集地欄 下から 2	木栖第 2 穴末端	本栖第 2 穴末端
29	摘要欄下から 5	(三代実録)	(三代実録)
30	摘要欄 8	(史料日記)	(更科日記)
30	摘要欄 12	噴火：富士山焼焼 (扶桑記略)	噴火：富士山燃焼 (扶桑記略)
30	摘要欄 17	地震：出頂崩壊 (太平記)	地震：山頂崩壊 (太平記)
30	摘要欄下から 7	噴煙：(日本西教史、篠枕)	噴煙：(日本正教史、篠枕)
31	表題	津屋弘達博士	津屋弘達博士
31	中欄 6	(1511) 鎌岩燃中 (妙法寺旧記)	(1511) 鎌岩燃ゆ (妙法寺日記)
31	中欄下から 6	(870) 山頂火口内に沸湯地	(870) 山頂火口内に沸湯池
31	中欄下から 1	(8 世期中頃)	(8 世紀中頃)
33	永河年代区分	氷河年代区分	氷河年代区分
33	地質年代区分	沖積世 (完積世) (現世)	沖積世 (完新世) (現世)
34	右下から 14	よってお覆	よって覆
45	④最大幅欄 8	(ケセバタ1.5)	(カケスバタ1.5)
59	右下から 5	尾根の中復	尾根の中腹
62	左 4	上流大倉川	支流大倉川
64	左下から 12	BP. 16.500年	BP. 16,500年
72	右 11	西方の羽鮒丘陵	西方の羽鮒丘陵
73	凡例 d 3	上位丘礫層	上位段丘礫層
74	右 19	これを契期として	これを契機として
80	図 22 左上	丹奈地	丹奈池
84	右 7	新富士火出噴出	新富士火山噴出

ページ	行	誤	正
85	左 17	4km内外	4m内外
91	図 27 真中左	大平星別所	大中里 別所
115	表題	地質学的視察第二巻第三号； 1890 (編集・日本洞窟協会より)	地質学的観察 (日本洞窟協会・ 洞人第二巻第三号) より
128	右下から 4	地震や豪雨長雨	地震や豪雨長雨
129	左 14	を建てる	を立てる
130	左下から 4	七夕豪雨	七夕豪雨
131	右 1	半永遠	半永久
134	右 4	42 津屋引達 (1935)	42 津屋引達 (1935)
135	左 17	55 津屋弘達 (1968)	55 津屋弘達 (1968)
135	左 26	59 日本火山洞窟学協会 (1980)：富士山の溶岩洞穴・溶 岩樹型の地学的観察 Vol. 2, No. 3	59 日本洞窟協会 (1980)：洞人 第二巻第三号
149	鳥名欄 6	メボソ	メボソムシクイ
150	折れ線グラフ 鳥名欄 8	ハシグトカラス⑥	ハシブトカラス⑥
151	左 2	世界ジャンボリ跡地	世界ジャンボリー跡地
152	左下から 6	ミツサザイ	ミソサザイ
155	左 8	メボリムシクイ	メボソムシクイ
169	右上調査結果 横手沢欄	マブラハヤ	アブラハヤ
189	左下から 10	一般に各の	一般に冬の
195	左 20	⑧⑥ ホシミズシ	⑧⑥ ホシミスジ
195	右下から 1	橙色型	橙色型
247	図 1 - 7	月平坑降水量	月平均降水量
254	図 2 - 5	年次別降水量 品芝	年次別降水量 品荒
255	図 2 - 12	政次別降水量	年次別降水量
295	右下から 7	コメツブツメクソ (マメ科)	コメツブツメクサ (マメ科)
301	右 4	スルガナンテンショウ	スルガテンナンショウ
329	参考文献 3	富田忠夫 (1979)：野外ハンド ブック・7	富成忠夫 (1979)：野外ハンド ブック・7
最終	5	<0544> 27-311(代)	<0544> 27-311(代)